

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	エフビー介護 サービス株式会社	代表者	柳澤 美穂	法人・ 事業所 の特徴	利用者様が住み慣れた地域と環境で生き生きと、その方らしい生活が継続できるように通い・訪問・宿泊のサービスを組み合わせ、柔軟な対応を心掛けています。
事業所名	あったかほーむ下野堂	管理者	市川 淳史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	1人	人	2人	人	4人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	利用者様の出来る事をより発見できるように、声掛けやレクリエーション活動を積極的に行う。また、朝礼や日々のサービス内での発見等はタブレットに入力し、情報共有、周知を行っていく。	毎月各利用者様担当の職員が近況報告としてご家族様にお手紙を書き、請求書と共に送付している。職員会議や利用者様ケアカンファレンス等で各担当者が利用者様の1ヵ月の状況報告をしてもらっている。タブレットを併用しながら、日々の朝礼や申し送り等で情報共有を行っている。	職員の意見が反映されていることが感じ取れる。協力体制もあり評価はしっかりできている。大変な仕事ですが頑張っているように見えます。	業務を見直し、入浴や隙間時間を利用し利用者様との関わりの時間をより作っていく。また、朝礼や日々のサービス内での発見等はタブレットに入力し、情報共有、周知を行っていく。
B. 事業所の しつらえ・環境	環境整備を行い、来年度は運営推進会議時に行事を計画し見学して頂ける機会を作る。	毎日最低1か所の環境整備を心掛け行った。 行事計画が不十分であったため外部の方への見学がしきれなかった。	スタッフの創意工夫をしていることが感じ取れることが出来た。また、季節創作、手作りの物を事業所内に飾り温かみのある雰囲気を感じ取れる。	環境整備を強化しつつ、来年度も運営推進会議やご家族様も参加できる行事を計画し見学して頂ける機会を作る
C. 事業所と地域のかかわり	西包括支援センターと協力し、あったかオレンジカフェを通じて、地域の皆様に事業所の事や福祉の事について知っていただく機会を作っていく。	オレンジカフェは好評で地域の方にお越し頂けた。 地域のボランティアの方と職員のレクリエーションを組み合わせ活性化は出来たと思います。	祭りなど出来ることがあればやりたいが、地域性なのかイベント等が減っている中で、防災訓練など施設で行ったものに参加するしかないのでは。 外での毎週のラジオ体操が始まり近所でも参加者が増えてきているので徐々にですね。	防災訓練に参加頂き、AEDや消火器の使い方、防災意識など高めていく。

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	自治会の行事等に参加し利用者 様以外の方々との交流を図り、 事業所を知って頂く。また、地 域の皆様の生活を支えるために どんなことが出来るのかを地域 と連携を図りながら実施してい く。	地域の行事には参加出来なかつ た。 施設にのイベントに参加頂ける よう働きかけた。	施設内に気軽に入っている物な のか分からないのではないかと。 イベントの案内など設置し、気軽 に足を運んでももらえる様にし てはどうか。	地域の皆さんに施設に足を運ん で頂けるように、オレンジカフ ェ、ラジオ体操を地道に行ってい く。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	地域の中で心配な方や困ってい る方はいないのか、会議中で確 認していく。困りごとや事例が あれば意見交換し検討をしてい く。	包括支援センター、民生委員の方 とも密に連携を図り具体事例に は対応できた。	個人情報保護の観点からも地域 の方の情報を把握するのが難し い。 見守りリストはあるがその本人 の同意なく施設には伝えにくい。	個人名でなく、事例として議題 にし検討していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	今年度に事業所の避難訓練に運 営推進会議の方々だけでなく、 市の職員も出席できるよう計ら う。また、地域の防災訓練にも 参加できるよう情報収集を行 う。	避難訓練は年2回行ったが外部の 方の参加には至らなかった。	発電機が存在、備蓄食材の存在が しれて心強い。 災害などの際施設に駆け込める よう普段からイベントを中心に 案内していく。	備蓄の食料・日用品等を定期的 に確認し非常時に備える。内部 研修・BCP（業務継続計画）に 沿った訓練を行い、災害に対す る意識を高めていく。